



## 今月の人権標語

# 言葉は凶器じゃない 伝えるためにあるんだ

1学期ももう終わります。夏休みには、人権作文、もしくは人権ポスターの課題があります。「ひとごと」ではなく「わがこと」として考え、表現してくださいね。よい夏休みを！！



### 言葉の力

国語科 内田 侑里

さて、みなさん。普段どんな言葉遣いをしていますか？私がこの学校に来て早4年。最初に驚いたのは、「死ね」「消えろ」「あー死にたい」をぐくぐく気軽に言っている人が多いことでした。しかし時が経ち、かくいう私も、さすがに「死ね」「消えろ」は言いませんが、先日の授業評価では「言い方がきついつきがあります」との言葉をもらいました。大いに反省しています。国語科教員にあるまじきです。

こんな時に思いをはせたい言葉があります。それは「言霊」、ことだまと呼びます。宗教的なものではなく、「言葉に霊的な力があると信じる傾向は、多くの民族に見られるが、古代日本人は神のことば(神言かみこと)だけではなく、人間のことばにも力があると信じていた。善いことばは、よいことを招き、不吉なことばは不吉なことをもたらすというのである。古く、『こと(言)』は「こと(事)」であった。」(※1)というものです。「自分なんか」「どうせ～に違いない」「前回もうまくいかなかったから今回もだめにちがいない」「いつも～だ」「私ばかり」……という言葉、みなさん使っていませんか？口には出していないけれど、心の中の口癖になっている人はいないでしょうか。自分の言葉で自縄自縛になっている人がいるのではないかと思います。そういう時は、意識して、自分の口癖を変えてみましょう。「前はうまくいかなかったけど、今回は違うかもしれない」ぐらいから始めてみませんか。きっと前向きな気持ちになることでしょう。また、人に対しても、柔らかな言い方をできるようになると思います。

まあでも、ポジティブなことばかりだと疲れるときもあるので、この言葉を紹介して終わります。『変身』で有名な20世紀を代表する作家、フランツ・カフカの「将来にむかって歩くことは、ぼくにはできません。将来にむかってつまづくこと、これはできます。いちばんうまくできるのは、倒れたままです。」(※2) ポジティブもネガティブもほどほどに、お互い言葉を大切にしていきましょう。

(※1)『古語林』林巨樹・安藤千鶴子 編 1997年1月発行

(※2)『絶望名人カフカの人生論』フランツ・カフカ 頭木弘樹 2014年10月発行 ←図書館に漫画版があります！

## みんなの声 ～前回の人権だよりを読んで～



### <生徒からの声>

- ・6月号の人権だよりは3回も読んでしまいました。自分たちにもこのような時が出てきた場合は、チンパンジー的かゴリラ的かを考えたいなと思いました。
- ・私は、周りに合わせて動くということがよくありますが、それは全て人まかせにしているような感じです。ゴリラが他種と遊ぶことがうまく相手に合わせることはすごいと思いました。
- ・大きな集団の中に入っているからには、思いやりが一番大切になってくるのだと思いました。これから社会に出て行く自分に何が足りないのかをよく考えてみたいです。
- ・相手に合わせる事ができるゴリラに関心を持ちました。僕はたまに相手の気持ちを考えずに行動することがあるので、ゴリラ的を心がけたいです。
- ・相手のことを思って行動してきたいと思います。そして、自分も大切にしていける必要があるのではないかと思います。これからしっかりと自分を見つめ直して行動していきたいです。
- ・どのような立場であっても「思いやり」を持って生活していきたいと思いました。また、この話を思い出して自分の行動を振り返りたいです。

### <保護者からの声>

- ・高校生活も1ヶ月が立ち、少しずつ慣れてきたのか、高校での楽しい話を聞かせてくれるようになりました。他者を思いやる気持ちを忘れず、「人と人の間に光」をたくさん感じられる3年間であってほしいです。
- ・人を思いやれることの出来る人になる、私達大人にも簡単なことのように思えてなかなか難しいことです。相手の立場にたって考える、誰にでも出来ることからが大切なのだと思います。
- ・他人に無関心になるのではなく、愛情を持って接することのできる人になってほしいと思います。



### 【保護者用】

今月の人権だよりを讀んでの感想をお願いします。

※締切り 7月26日(木)

( )年 保護者


### 【生徒用】

今月の人権だよりを讀んでの感想を書こう。

※締切り 7月26日(木)

( )年 ( )組
